

《医科栄養学研究科博士後期課程 医科栄養学専攻》

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。
 ・ディプロマ・ポリシーをさらに細分化している場合には、それを項目として用いることができる。

科目名	ディプロマ・ポリシー	主要授業科目	【1. 国際的な最先端の知識や技術】	【2. 国際的な情報発信能力】	【3. 国際的な連携能力】	【4. 科学の進歩発展への貢献】	科目の教育目標	担当教員名	単位数	
			英語による最先端栄養学の知識や研究手法を習得した人材	研究を組み立て、研究成果を国際的に発信できる能力	国内外の栄養学関係者と交流し、連携できる能力及び自立心	国際社会のニーズに対応するために、栄養科学の進歩発展に貢献できる人材			必修	選択
全専攻系共通カリキュラム科目	生命倫理概論		○		◎	◎	生命倫理学、臨床倫理学、社会倫理、個人情報保護、実験動物愛護等について概説できる。	西村明儒 他		2
	臨床心理学		○		◎	◎	臨床心理学の基礎的理論・技法および今日的課題を説明できる。	津島文彦 他		2
	社会医学・疫学・医学統計概論		◎	◎	○	◎	社会医学・薬学・歯学等に関して、授業目的に示した講義内容の理解が深まることを目標にする。	渡邊謙吾 他		2
	英語論文作成法		○	◎	○	◎	21世紀に医学、歯学、薬学、栄養学、保健学の各分野で活躍する人材には発信型英語能力が堪能であることが要求される。本授業ではこれらの領域で用いられる独特の英語表現法に関わる基本的知識を修得することを目的とする。	池田康将 他		2
	生命科学の研究手法		◎	◎	◎	◎	医科学・生命科学に必須の初歩的技術が理解できる	森田明典 他		2
	医療系分野における知的財産学概論		○		○	◎	1. 知的財産制度の全体像を理解する。 2. 研究活動や医療に必要な知的財産制度の内容を理解する。 3. 社会人として活動するに際して役に立つ知的財産制度の内容を理解する。	石田竜弘 他		2
	生命科学コミュニケーション特論		◎	◎	○	◎	英語を介して、生命科学における多様な知識を得ること、それらを理解し、簡潔にまとめて発表し、科学的な議論を行うスキルを向上させることを目的とする。	渡邊謙吾 他		2
	研究方法論		◎	◎		◎	報告された臨床研究結果の批判的解釈ができる。臨床第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ相試験のデザインについて理解し、プロトコルの立案と遂行に関与できる。	楊河宏章 他		1
	がんチーム医療実習		◎	○	○	◎	がん医療にかかわる他職種役割を理解できる。患者のケアに関して他職種との意見交換・討論ができる。他職種に専門的な助言ができる。チームとして行動できる。	滝沢宏光 他		0.5
	悪性腫瘍の管理と治療		◎	○	○	◎	がんの検査・診断法、手術療法・放射線療法・化学療法などの治療法、さらに支持療法、緩和医療のstate of the artについて理解するとともに、がんの心理的・社会的側面についても理解を深める。	滝沢宏光 他		1
	医療情報学		○	○	○	○	情報化とは何か、病院情報システムの概要、ならびにデータ解析の手法である“Data Mining”について理解する。文献、オンラインデータベース、インターネットを通じてがんの臨床と研究に関する情報検索と収集ができる。EBM、クリニカルパスの方法や意義について理解する。	廣瀬 隼 他		0.5
	医療対話学 (コミュニケーションスキル)		◎	◎	○	◎	がん患者と家族、医療チーム内スタッフとの良好なコミュニケーションを確立できる。がん患者と家族に好ましくない情報をスムーズに告知でき、必要に応じてカウンセリング、スピリチュアルケアを提供できる。	沼田周助 他		0.5
医療倫理と法律的・経済的問題		◎	◎	○	◎	がん医療と臨床研究の遂行に必要な医療倫理、法律的問題、社会的・経済的問題について理解する。	西岡安彦 他		0.5	
各専攻系間の共通カリキュラム科目	臨床医科学概論		◎	○	◎	◎	循環器、呼吸器、消化器、神経・筋、内分泌・代謝、血液の各臨床領域における代表的な疾病につき、発生機序および原因となる遺伝子などの異常、そして各々の疾患の病態生理を理解させ、最新の診断および治療法の理論と実践を学ばせる。	松香芳三 他		2
	プロテオミクス概論		◎	○	◎	◎	ポストゲノム時代における医学および生物学に重要な位置を占めるプロテオミクスの基礎を習得する。	小迫英尊 他		2
	健康食品・漢方	○	○	○	○	◎	健康食品、漢方、天然薬物などの正しい知識と、適切な使用方法に関する基本事項を身につける。	竹谷 豊、赤川 貢、田中直伸、亀井優輝、伏見太希		2
	ヒューマンサイエンス(形態と機能)		◎	○	◎	◎	1. 科学的、論理的な理解、説明ができる。 2. 細胞の基本構造と機能を説明できる。 3. 遺伝子情報の仕組みを理解できる。 4. 膜輸送、情報伝達の仕組みを説明できる。 5. 以上の知識に基づいて課題について調査し自らの考えでまとめることができる。	寺井健太		2
	ゲノム創薬特論		◎	○	◎	◎	ヒトゲノム情報に基づく疾患発症の分子機構、創薬及び治療アプローチに関する講義を通じて、ゲノム創薬の考え方や実際について学ぶ。	井貫晋輔 他		2
指定科目	栄養生命科学概論	○	○	○	○	◎	栄養素が持つ分子情報を、各種疾患発症や予防の側面から理解する。	瀬川博子		2
	宇宙医学特論	○	◎	○	○	◎	宇宙環境における特殊な栄養素代謝を理解する。	二川 健		2
	宇宙リハビリテーション医学	○	◎	○	○	◎	宇宙環境における運動の重要性について理解する。	二川 健、三上靖夫、笠岡(坪山)宣代		2
	災害栄養学	○	◎	○	○	◎	宇宙や災害など特殊な環境での栄養学を理解する。	二川 健、笠岡(坪山)宣代、三上靖夫		2
	栄養免疫学特論	○	◎	○	○	○	栄養素と免疫機能について学習する。	酒井 徹		2
	環境栄養衛生学概論	○	◎	○	○	◎	環境による栄養衛生の影響について学習する。	高橋 章		2
	臨床ストレス栄養学特論	○	◎	◎	○	◎	患者の病態が把握でき、栄養状態を評価し、適切な栄養管理を行うために必要な考え方を習得する。	濱田康弘		2
	臨床栄養管理学Ⅰ	○	◎	○	○	○	臨床病態、栄養管理の理解	竹谷 豊		2
	臨床栄養管理学Ⅱ	○	◎	○	○	○	臨床栄養管理についての最新の知見を学ぶ	野村 和弘		2
	臨床代謝栄養学Ⅰ	○	◎	○	○	○	臨床病態、栄養管理の理解	野村 和弘		2
	臨床代謝栄養学Ⅱ	○	◎	○	○	○	栄養管理と病態の理解	野村 和弘		2
	臨床代謝栄養学Ⅲ	○	◎	○	○	○	水・電解質・酸塩基平衡の病態を理解し、栄養管理を行うことができる。	竹谷 豊		2
	臨床代謝栄養学Ⅳ	○	◎	○	○	○	重症患者の栄養管理法について理解する。	竹谷 豊		2
	医療栄養学概論	○	◎	○	○	◎	栄養障害患者の栄養管理法、新規栄養治療法を確立する基盤と方法、栄養・食品の機能と栄養治療、栄養治療などを修得させる。	高橋 章 他		2
	機能性食品設計学	○	○	○	○	◎	機能性食品を開発設計するための基礎能力を養う	赤川 貢		2
	クラスターコアセミナー	○	◎	◎		◎	教育クラスターを構成する教員あるいは国内外から招聘した研究者に、最先端の研究内容を講義してもらい、生命科学領域の広い範囲の知識や研究手法を習得する。	教育・研究委員長		2
	先端健康科学特論	○	◎	○	○	○	国内外から招聘した研究者に、最先端の研究内容を講義してもらい、健康科学領域の広い範囲の知識や研究手法を習得する。	教育・研究委員長		2
	国際栄養学特論	○	◎	◎	◎	◎	栄養学と関連の深い疾患に対する研究力、考察力を養う。研究に必要な英語力をつける。	瀬川博子 他		2

科目名	ディプロマ・ポリシー	主要授業科目	【1. 国際的な最先端の知識や技術】	【2. 国際的な情報発信能力】	【3. 国際的な連携能力】	【4. 科学の進歩発展への貢献】	科目の教育目標	担当教員名	単位数	
			英語による最先端栄養科学の知識や研究手法を習得した人材	研究を組み立て、研究成果を国際的に発信できる能力	国内外の栄養学関係者と交流し、連携できる能力及び自立心	国際社会のニーズに対応するために、栄養科学の進歩発展に貢献できる人材			必修	選択
病態栄養学特論		○	○			◎	疾患毎の栄養素代謝を理解できること、またそのような栄養素代謝異常を理解した上で適切な栄養管理の手法を適応できる	竹谷 豊		2
治療栄養学実習		○	○		○	◎	大学病院や関連病院などにおいて、実際の臨床栄養管理に携わる中で、栄養アセスメント、栄養介入、栄養モニタリング、栄養評価を適切に実施できるようになる。	竹谷 豊		4
腫瘍制御栄養学			◎	○	○	◎	がん患者の栄養管理ならびにがん予防のための栄養や食品などの生活習慣について説明できる。	竹谷 豊		1
腫瘍栄養学各論			◎	○	○	◎	腫瘍の栄養学的な特徴、臨床症状、栄養治療、合併症の対策について学ぶ。	野村 和弘		2
がん栄養学演習			◎	○	○	◎	がん患者の栄養アセスメント、栄養代謝、病態、栄養管理について説明できる。	竹谷 豊		2
がん栄養学実習			◎	○	○	◎	病棟における症例から実際の栄養管理を学ぶ。1)がん悪液質の栄養管理、2)化学療法、放射線療法時の栄養管理、3)薬物の理解(麻薬、消炎鎮痛薬、ステロイド)、4)食欲不振に対する栄養管理、などを理解する。	竹谷 豊、野村 和弘、高橋 章、濱田康弘		4
がん治療と栄養管理			◎		○	◎	1)癌における栄養不良の原因、2)癌における代謝の変化、3)がん治療中の栄養管理、4)薬物の理解(抗がん剤、麻薬など)、5)食欲不振に対する栄養管理、などを理解する。	野村 和弘		2
緩和ケアと栄養			◎			◎	包括的がんケアにおいて、がん緩和医療の質を高めるための栄養管理を学ぶ。	野村 和弘		1
分子代謝学セミナー		○	◎	◎	◎	◎	疾患予防について、栄養及び薬物との相互作用を理解する。	瀬川博子		2
分子代謝学実験		○	◎	◎	◎	◎	実験学習し、基礎栄養学を理解する能力を身につける。	瀬川博子		6
生体機能学セミナー		○	○	◎	○	◎	生体機能と栄養の関係について分子レベルで理解する。	二川 健		2
生体機能学実験		○	◎	○	○	◎	生体機能と栄養の関係について研究を行い、学会や論文を通じて成果を発表する。	二川 健		6
食品機能学セミナー		○	◎	○	○	◎	ヒトの健康にかかわる食品の機能性について理解する。	赤川 貢		2
食品生理機能科学実験		○	○	◎	○	◎	ヒト栄養学の観点から食品機能科学研究を行うための応用能力を養う	赤川 貢		6
環境予防学セミナー		○	◎	○	○	◎	環境を介した疾病等の予防を理解する。	高橋 章		2
環境予防学実験		○	◎	○	○	◎	実験を等して、環境を介した疾病等の予防法を身につける。	高橋 章		6
健康医科学セミナー		○	◎	○	○	○	疾患の病態を理解する	野村 和弘		2
健康医科学実験		○	○	○	○	◎	実験を等して、疾患の病態の研究手法を取得する	野村 和弘		6
治療栄養学セミナー		○	◎	◎	◎	◎	栄養代謝、病態、栄養管理に関する最新の文献から、将来の研究に生かせる洞察力や分析力を養う。	竹谷 豊		2
治療栄養学実験		○	◎	◎	◎	◎	栄養に関する問題・課題を見いだし、適切な研究手法を用いて解決し、成果をまとめて学会発表や論文として発表することができる。	竹谷 豊		6
公衆栄養学セミナー		○	◎	○	○	○	公衆栄養学および栄養免疫学におけるトピックスな話題について議論する。	酒井 徹		2
公衆栄養学実験		○	◎	○	○	○	栄養免疫学および栄養疫学に関する最新の実験手法を習得する。	酒井 徹		6
機能素材開発学セミナー		○	◎	○		◎	ヒトの健康にかかわる機能性素材の性質や化学について理解する。	小竹英一、箭田浩士、松木順子		2
機能素材開発学実験		○	○	◎		◎	ヒト栄養学の観点から機能性素材開発研究を行うための応用能力を養い、学会発表や論文としてまとめることができる。	小竹英一、箭田浩士、松木順子		6
精神・神経栄養学セミナー			○	◎	○	◎	中枢機能と栄養に関する最新の情報について議論する。	武田伸一		2
精神・神経栄養学実験			◎	○	○	◎	中枢機能と栄養の関係について研究を行い、学会や論文を通じて成果を発表する。	武田伸一		6
宇宙栄養学セミナー		○	○	◎	○	◎	宇宙環境における特殊な栄養素代謝や宇宙食開発に関する最新の情報について議論する。	二川 健		2
宇宙栄養学実験		○	◎	○	○	◎	宇宙と栄養の関係について研究を行い、学会や論文を通じて成果を発表する。	二川 健		6
宇宙医学セミナー		○	○	◎	○	◎	宇宙環境における特殊な生理状態に関する最新の情報について議論する。	二川 健		2
宇宙医学実験		○	◎	○	○	◎	宇宙と医学の関係について研究を行い、学会や論文を通じて成果を発表する。	二川 健		6
疾患治療栄養学セミナー		○	◎	○	◎	◎	栄養管理、栄養療法に関する最新の文献から、将来の研究に活かせる能力を身につける。	濱田康弘		2
疾患治療栄養学実験		○	◎	○	◎	◎	実地臨床に密接に関連する問題・課題を見いだし、適切な研究手法を用いて解決する。また、学会発表や論文発表ができるようになる。	濱田康弘		6
臨床栄養学セミナー		○	◎	◎	◎	◎	臨床栄養管理に関する英語文献を読み、最新の栄養管理の研究手法やエビデンスを説明できる。	各研究室指導教員		2
臨床栄養学実験		○	◎	◎	◎	◎	臨床栄養学における研究課題の探求、その課題解決のための研究手法を検討し実施できる。研究成果について学会発表や論文発表ができる。	各研究室指導教員		6
臨床腫瘍栄養学セミナー			◎	◎	◎	◎	がんに関する最新の情報を学ぶ過程を通じて、情報収集、がん栄養に関する研究手法、最新の栄養管理法などについて説明できる。	各研究室指導教員		2
臨床腫瘍栄養学実験			◎	◎	◎	◎	がん栄養に関する研究を実践できる。	各研究室指導教員		6